

6 全体

放課後等デイサービス事業所4事業所「にじと風」「にじと風キッズ」「さくらいろの風」「あかねいろの風」は其々の特色を生かして概ね順調。各事業所独自の事業を実施。また合同事業も実施できるようになった。

生活介護事業「花浅葱」は事業は順調だが稼働率50パーセント未満で経営的には厳しい。

児童発達支援事業今年度も申請せず 初期療育は民間ではなく公が費用負担を、利用者に負担させることなく高度な専門性を持つ職員集団で行うべきである

同様の理由で保育所等訪問も実施せず 有資格者は2名

連携事業:2種さくらんぼ(ぽっぽより名称変更)、早稲田アシスト、個人契約者 対象者6名 変化なし
使用時間に応じて実費水光熱費支払を受ける

職員体制: 規定の3倍配置 常勤 23名 昨年より5名増加
非常勤 30名 昨年より1名増加
契約 3名

事業 相談事業は順調だが国保への請求で出来るようになった。職員配置は変わらず2名
会報を年4回発行できた。

常勤雇用増加総数増加

防災訓練実施、職員健康診断、運転者講習会救急救命法等の実施

AED全事業所設置

自主研修会「やちよ福祉塾」を再開できた。

施設整備、環境整備が上手になってきた。 季節ごとの花壇整備清掃

遊具の清掃、修理」が上手になった。

職員会議、サビ管会議の開催が定期的になった。

緊急時の子供用シェルターとして利用する事あり(さくらいろの風、にじと風キッズ)

短期入所は受託しない。

リスク管理救急救命法から始める 福祉避難所 民間広域機関に登録完了今年度の利用なし

車両事故減少 H28年度 1回 前年度よりさらに改善された

その分スノータイヤ購入できた(全車両)

タクシー送迎は経費的にもまた子どもの社会性を育てるためにも良い効果がある。継続

マイナンバー導入に伴い個人情報の取り扱いの厳格化完了

経営 事業所間の収支のばらつき、及び加算申請がなされなかったため1400万の借り入れが期末で生じた。加算の申請を期末で実施したので今年度の借り入れは減少する。

無利息による心身障がい児者父母の会よりの借り入れである。3年で返済予定

生活介護事業開所の経営の安定

放課後等デイサービス事業所の事業内容のさらなる充実

病児お預かり場所が2か所になり消毒、車両の使用制限等がなくなり利用者従業員に対する負担が軽減された。

夕食供与人数が増加した。 21時まで

早朝登校支援も増加した。 7時から

両事業とも制度外なので施設負担が増している。

職員の毎日50食のおやつ作りの腕が上がった(「おいしかったよ」と言ってもらいたいため)

ガイドラインを生かした各事業所の独自の運営を強化する

相談支援事業所と連携しこどもの最善の利益を一義的に保護者と共同して推進できるようにすることが課題

次年度への懸案事項

7 各事業所・事業ごと

年間実績

① にじと風	①	行なっている事業	6種	開所日数	利用人数	利用時間	1日平均利用人数	職員数
		放課後等デイサービス事業		261	1711	8097.5	6.56	8
		日中一時支援事業		365	1238	4848.5	3.4	4
		移動支援事業		365	1441	1767	3.95	12
		居宅介護事業		365	711	3831	1.9	12
		相談支援事業		365	2151	29783	5.89	2
		相談支援事業(障害児等療育支援事業)		365	1230	2457	3.37	2
		相談支援事業(制度外)		365	378	3780	1.04	2

ワンフロアの中で年齢障害の違いに関わることなく各自の遊びたい遊びを遊ぶ。

社会性の育ちを促す。ちょっと我慢する。

我慢できない事を伝える。

お友達を作る。お互いに認め合う。

送迎箇所時間職員配置等事業所全体の調整を行う。

ワンフロア全体を使った線路遊び。バルーン、ポーリングごっこ

夜間個別を通しての摂食訓練、個別療育遊びの導、個別遊具の作成

家族のレスパイト、就労保障の利用者が多い。

個別支援計画の文章化がなされていない人がいる。

相談事業は請求を出した件数のみ未提出多。

にじと風キッズ 主に個別対応の必要な利用者、病児の待機。

緊急時の擁護のお預かり場所

開所日数	利用人数	利用時間	1日平均利用人数	職員数
261	1741	8034	6.67	7

さくらの風	放課後デイサービス事業 外来障害児等療育支援事業への開催場所の提供 介護経験者常勤が多いので医療的ケアの必要なこの預かりが多い 幼児利用者を日中一時にて保育 法人事務業務の一部事務所(経理、人事、書庫) スヌーズレンを利用した活動主体 利用状況良好 活動の範囲を広げさらに発達を促す支援を目指す リクライゼーションの幅が広がった おやつのかたづけ準備を行うことでお手伝い、小さい子の面倒を見る等自発的社会性が育っている。 独自行事 銭湯ごっこ・さくらカフェ	開所日数	利用人数	利用時間	1日平均利用人数	職員数
		261	1545	7873	5.92	6

あかねいろの風	放課後デイサービス事業のみ 自主保育さくらんぼ(ぽっぽより名称変更)との共同事業実施場所 大きなトランポリン戸高い天井、が特色。 身体を動かして遊ぶ事が好きな子どもが多く在籍する。 利用者にあかねいろの場所に慣れてもらうために週1回法人全体より利用者を選定し活動。 提案により事務室をボールプールのみの部屋に変更 送迎が足しに渡るので療育に当たる職員が少ない時間帯がある 法人全体の遊具の保管庫の役割を果たす。 独自事業として 屋外プールの実施、生活介護事業所の雨天体操場、銭湯ごっこ トンネル、室内用砂等遊具は準備されているが使いこなせない。次年度課題 職員間の研修に対して意欲が多であるが療育経験の未熟な職員が多い	開所日数	利用人数	利用時間	1日平均利用人数	職員数
		261	1114	5637.5	4.27	8

課題

住宅介護事業 類型4事業実施 にじと風福祉会利用者の個別支援の一環として開始したが、今年度は成人他市よりの利用者が多くなった。 1回の利用時間が長時間に及ぶのでヘルパーの稼働率が悪い。 利用者には好評で打診者が多くすべてのニーズに応えきれない。 土、日に利用希望が集中するためまた1回の利用希望時間が長時間のため希望にこたえ切れていない。 1人に付月に2回くらい実施	開所日数	利用人数	利用時間		
	行動援護	365	300	2753	
	同行援護	365	207	514	
	重度訪問	365	204	564	
	通院等同行	365	0	0	

重度訪問

1名のみ登録 週4~5回。
生活行為の確保。
有資格者3名による支援 主に介護。

居宅介護

1名のみ登録 不定期。
生活行為の確保 入浴・身辺整理。
現在登録あるがサービスの実施無し。

行動援護

八千代 5名
船橋 3名
習志野 1名
栄町 1名
四街道市 1名
有資格者5名による支援 主に外出 順調。

同行援護

船橋 1名 4月よりなし

☆次年度への課題(案)

- ・支援者の技能資質の更なる向上⇒外部研修等への参加。
- ・休日稼働可能なヘルパーの増加⇒利用者数の増加を図る。
- ・利用者の支給決定がなかなか下りない⇒継続して訴えていく。

地域生活支援事業日中	法制度の改正に伴い放課後デイサービス受給量が減少し、足りない預かり日数の不足の補完としての利用形態が多くなった。 業後のホットするひと時的利用は継続 学齢期のレスパイト(家族就業保障主体)	開所日数	利用人数	利用時間	1日平均人
		日中一時	365	1238	4848,5

地域生活支援事業移動	住宅介護事業に準ずる 利用基準が市町村によりばらつきが多くなった 通学、通所に利用できるようになった市町村もあるがサービスの類型が出来たことで家族力をそぐことの無いよう留意して事業を実施していきたい。	開所日数	利用人数	利用時間	
		移動支援	365	1441	1767

- ・ヘルパーとお出かけ外出、学校、通所・入所施設への送り迎え。
- ・1対1の対応なので職員を独り占めでき好きなところへ行けることが出来た。
- ・計画相談により支給件数が増加。年間利用人数の増加に繋がる。
- ・移動支援から行動援護に支給内容が変更され他利用者がおり年間利用時間が減少した。
- ・船橋市は25年度よりお出かけのみであったが27年度よりお出かけ外出、学校、通所・入所施設への送り迎えが可能となった。
- ・八千代市はお出かけのみ。

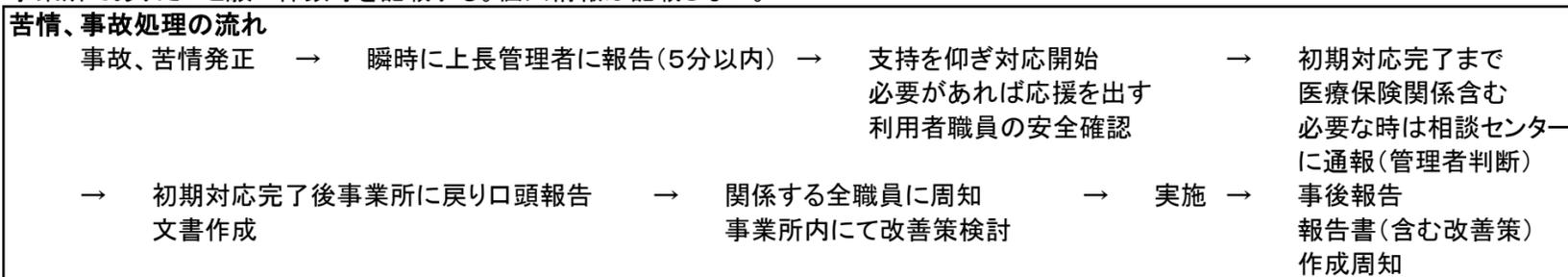
☆次年度への課題(案)

- ・職員、ヘルパーが1対1の為非常時の決断が難しい⇒職員ヘルパーの更なる研修の実施。
- ・利用者ニーズの変化に伴う対応の在り方⇒事業所の方針を明確にしながら利用者に寄り添う支援を継続していく。

8 各事業所・事業ごとの事故報告苦情処理の状況

今年度の事業報告より今までは個別に処理記録として事故報告書のみに記載してきたものを法人全体として取りまとめこの事業報告書にて会員全体にお伝えすることとする。

事故苦情共に従来の解決までの流れを大幅に変えることはしないがさらに利用者やその保護者にとってより安心してお付き合い願える事業所でありたいと願う件数等を記載する。個人情報記載しない。



件数

	事故報告 件数	車両事故	苦情処理
にじと風	6	1	2
にじと風キッズ	9	1	0
さくらの風	2	0	0
あかね色の風	1	0	3
花浅葱	0	0	1

にじ 6件とも利用者通しのトラブルによる他害を職員が適切に処理できなかった

車両事故は職員通勤途上にて

苦情は職員への対応に対して

キッズ 送迎途中にて職員同乗していたがきずかず他害行動に結びつき引っかいてしまうこと9件

車両意見は送迎者帰り同乗利用者なしで停止中にぶつけられた

さくら 1件は職員の文具方付け忘れによる誤飲の疑い通院レントゲン異物なし

1件は職員の不適切な支援による暴力とみなし職員の反省と通報同日確認後詫言

本児の利用継続なし

あかね 3件とも職員の不適切な支援による不快感の訴え不信感の訴え

本職員確認後お詫言継続利用あり

ふと見過ごしてしまうことふと後回しにしてしまうこと、障害特性やご家族の思いを受け止め

切れないことが事故につながる

もっと研修をして職務に対してプロになれるように業務遂行することが課題

花浅葱 身体障害に対する特性の理解不足から来る不適切な支援と対応

改善がみられないので本人家族と相談し相談支援事業所を通して他事業所に変更

平成29年度より事故に行き着く前に気づきを促すためにひやりはっと記入導入

記入法記入の機会を増やすためにちょっとうれしかったこと記入用と並列

導入後の記載状況良好 「ヒヤリハット・にやりハット」